

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391100098		
法人名	社会福祉法人 順風会		
事業所名	グループホーム 西城園		
所在地	熊本県宇土市戸口町906番地		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町村報告日	平成29年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	平成29年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

集落の中にグループホームがあり、近所の方が気軽に声かけ出来る距離にある。海岸に面した立地条件から、台風などの自然災害は早めの対応が必要である。今年も法人内の特養に利用者全員避難を行った。避難の際は地域区長・民生委員に連絡し、所在報告するとともに、ご家族に連絡し、応援が出来るご家族の協力も得ている。避難後の見回りは区長が行っておられ、地域と連携も取れている。地区運動会・イカ祭り・どんどこやなど地域のイベント等にも積極的に利用者と職員共に参加し、地域住民との関係を構築している。年に一回の法人主催の「西城園祭」も4回目になり、地域住民・ご家族と楽しみにしていただくイベントなりつつあり、利用者の自慢の作品の展示も出来ている。毎月ボランティアでフラダンス・健康ダンスの方々が慰問に訪問され、地域の方も参加も多く利用者の顔見知りも多く訪問を楽しみにしている。演舞の後には、利用者とボランティアの方のおしゃべりも楽しみの一つになっている。利用者が地域住民も多くなり、地域の方の訪問が多くなり、お話ボランティアの役目も果たしておられる。グループホームに自由に地域住民が出入りして頂けるように開かれたホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で暮らした方々は今までと同じ様に「地域」で暮らし、一歩外に出れば近所の方と声を掛けあい、入居者同士・近所さんの様に語らい、笑い…と、当たり前の毎日が穏やかに安全に過ごされている。入居者の傍らには職員がさりげなく寄り添い、共に笑い、共に語り合いの時を過ごしている姿が印象的であった。大好きな職員であろうか、その人を見かけると入居者が笑顔になり、自ら近づき手を差し伸べる姿も、日頃の様子そのものだろう。新法人に移行して3年を経過し、職員間での信頼関係も醸成され、職員同士意見を出し話し合い一つひとつの事例に向かう体制が出来たように見受けられた。事業所は地域と共に地域の問題・課題を考え、法人全体で連携しながら入居者の安心・安全に向け取り組んでいる。地域の高齢化も進む中、様々な新たな課題も出てくるでしょうが、認知症ケアの地域での取り組みを事業所として住民を支え、啓発されることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自で全員で作成し、それに基づいたケアを行っている。	法人の理念に併せ、職員で話し合い作成した理念で業務に臨んでいる。日々のケアからケアプラン作成に至るまでその理念は基となって職員に根付き、新しい事業所ならではのケアの指針ともなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは、地域の方々から行事が招待があるようになり、その時々で参加している。法人本体の行事に参加するようになり、グループホームの認知度が上がり、地域の方々の訪問も増えてきている。定期的なボランティアも増えてきている。	入居者の以前の生活圏の中にホームが有り、近隣との親交も深く、散歩の際には声を掛けられることも多い。又、ホームの空き室を定期的に地域に開放して、ビデオの映写会や談話室に提供しており、地域の高齢者から喜ばれている。	神社のイカ祭りは夜間行われているが職員の出し物を披露して地域の伝統行事を支えている。今後は是非その一助となる様継続した支援に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「西城園新聞」や状況報告書で情報を発信するとともに、見学や相談がある時に、利用者以外の事でも気軽に相談してもらえるような対応を心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・区長・老人会会長・地域包括支援センター・行政・地域住民代表の方に参加して頂き、サービス内容や事故報告などを行うとともに、自然な会話から、ご家族の意見を正田節のような談話形式で会を進行し、時間を作っている。	会議では事業所の入居状況や入居者に関する報告だけでなく、日常生活の様子も報告されている。特に意見交換は活発で、地域・行政・事業所が一体となって入居者を支える姿がある。地域の防災について等、行政を交えた意見交換は、地域と行政を繋ぐ大きな機会ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター・行政からの要請もあり、困難事例の利用者の受け入れも積極的に行っている。	日常的な手続き等だけでなく、運営推進会議への参加もあり、事業所の日常を知っている。また行政からは入居状況の問合せや災害情報の配信等があり、協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体状況を共有し、事故予防の観点から利用者にとって、どの方法が一番のケアに繋がるか・その場合は高速になるか？を常に話し合い、ご家族の理解を得て、現状報告を常に行い拘束にならないように努めている。	身体拘束については法人で委員会が設置されており、定期的な勉強会と報告がなされている。ケアの在り方、対応の仕方、特に言葉の拘束や夜間のケアについて常に話し合う体制が整っており、職員全体で取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と高齢者虐待は職員がもっと勉強が必要だと痛感している。外部研修に参加し、放任も合わせてとところで復講も行い、職員の意識向上に努めている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度など必要な方には口頭で説明している。(現在はなし) 勉強会参加は積極的に行い、今年度は宇城グループホーム連絡協議会主催の権利擁護をテーマとする勉強会が開催され、当ホームからも多数参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際はもちろん、改正の際もじゅうぶんな説明を行っている。その際に不安や疑問が発生した場合は説明し、理解を頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。苦情等があった場合は、法人と合同の「苦情解決委員会」に報告し、法人と一緒に解決をしている。	運営推進会議に家族代表が出席し、家族からの要望や意見を頂いているものの、家族からの要望や意見があまり無いようである。	ホームの運営やケアに対して家族の安心があるものと思いますが、ホームはあくまでも支援者で有り利用者の一歩の「絆」は家族である事を管理者・職員の力添えで理解して頂く支援を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行っており、残食インが利用者の情報を共有を図り、職員間の関係づくりを行っている。	毎月全職員にてユニット間合同会議を開催し、入居者の情報共有を行っている。旧法人からの譲渡以来3年を経過したところである。職員の移動、退職、新規採用とめまぐるしい期間が過ぎて、職員間の気心もわかり意見や提案も出し合える関係になっている。定期的に法人の面接があり、日常的にも施設長や管理者と話す機会があり体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的(6ヶ月に1回)や問題発生時に所長がヒアリングを行って、職員の不満や要望を聞き、法人に相談しながら出来る限り、できる限り意欲が向上できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多く持ち、キャリアアップ研修・資格取得の為に研修等を説教的に受講させ費用のほじょうも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城ブロックグループホーム連絡協議会があり、二カ月に一回の連絡協議会がある。核施設の情報交換や施設訪問など同じ立場の職員との交流を行っている。		

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が「どうしたいのか？」を常に考え、言葉や表情から読み取れるような関わりを持ち、初期段階では慣れただくまで、その方を知る・という視点からご家族にも協力していただき、見守り・ケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用初期の段階で家族の意見を時間をかけてきとりを行い、相談しやすい県警づくりに努めている。面会の時等は必ず管理者が聞き取りを行い、不安等の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族にお便りを使って、近況報告を行い、変化があれば受診等の対応を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る作業は職員がするのではなく、利用者と一緒にしている。(たとえば、食事の準備・洗濯物たたみなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診等など可能な限り、ご家族に同行して頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少し遠くでも面会や電話等でも交流が出来る環境を支援している。	入居者も地域住民であったことから、散歩に出ると知り合いに会い、声かけや会話が有っている。以前からの趣味である、カラオケや絵描きや料理などがホームでの生活を活力有るものになっている。入居者が作る鶏の蒸し焼きなどホーム全員で賞味出来ている。「生活の継続」の支援に力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流スペースのソファに座り、かみ合わない会話であるが、それぞれ楽しく会話が出来る環境を作っている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームだけでは退所後の交流は難しいが、法人の行事等へのお誘いを行い、退所後の関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意向も十分に聞き取りしたうえで、利用者本位の考えに基づいて思いやりや意向を家族と交友している。	入居者の傍には職員の姿があり、日々の寄り添いの中で思いや意向の把握に努めている。入居者はそれぞれの趣味を楽しみ、絵画や書道、カラオケや新聞の切り抜き、料理のふるまい等、様々な内容であるが、事業所全体で支援する姿がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報収集するとともに、本人と普段の会話の中から、生活歴を把握し、日常の支援につなげている。得られた情報は記録に残し、職員間で共有し、ケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活歴を踏まえた上で、今の心身の状態に合わせた支援を行っている。一日の過ごし方や身体の状態・行動の状態を十分に観察し、職員同士が情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議や日々のミーティング・申し送りでも現状や困難事例を話し合い、意見を出す事でチームとして統一したケアにつなげています。また、家族と話す機会に加え、状態に合わせて医師の意見も取り入れたカンファレンスを実施している。	毎月の会議では2ユニット全体の入居者情報を共有し、困難事例に対して活発な意見交換がある。また都度の個別事例に関してはユニットで話し合いを持ち、状況に応じたケアの統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	PDCAサイクルを行い、介護計画の見直しもスムーズに行えるようにしている。ケアプランに基づく記録を行い、ご本人からの訴えや態度なども記録に残し、職員間で情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生まれてくるニーズに対応できるように、普段から様々な視点で観察し、ご家族と相談・協力しながら支援を行っている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを活用し、地域資源の把握に努めている。入居者の方が地域住民の一人として活躍できるように、地域行事に参加したり、ボランティアを受け付けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診または歯科医・歯科衛生士の訪問も行われている。症状に応じ、専門医への受診の支援も行っている。	入居前からのかかりつけ医を支援するが、現在はほとんどが協力医である。往診は月1回で、歯科医の訪問もある。急な場合や遠方の受診には職員の通院介助が多く、状況により家族と待ち合わせしている。受診状況は家族へも報告し、情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気付いたことは、看護師へ報告し、適正な指示を受けている。利用者の健康管理・服薬管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時にかかりつけ病院より情報提供を頂き、日常生活の情報などを集め、入院中は職員も面会に行くなどして退院時がスムーズに行くように行っている。入院時は日頃の様子など病院に伝え治療に役に立つようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当ホームで出来ること、看取り期の説明を行っている。時期が来た段階で家族・管理者・看護師とカンファレンスを行い、協働してより良い看取りが出来るようにしている。	入居時に説明を行い、入居者・家族から同意を得ている。看取り期まで支援を行う様、医療機関との連携や職員で取り組む体制は出来ているが、現状では医療が必要となった場合、病院への移転を希望する家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を活用し、管理者へ連絡を行い、その指示のもと駆けつける体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に台風の時は法人への早めの避難を数回実施した。その場合、地域の主要な方々への連絡と協力を行った。	火災については年2回入居者も共に訓練を行っている。地域全体が台風や水害に対しての意識が高く、早めの避難や避難経路、協力体制については運営推進会議でも行政を含め活発な意見交換が行われている。	海に隣接する地域であることから、地域全体で災害に対する意識が高く、早めの避難が行われています。避難生活を心配する家族もあるかと思うので、家族への状況説明の方法も再度検討されてはいいかでしょうか。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人おひとりの人格を尊重しながら、個々にあわせた対応を行っている。その方の人格を受容し、状況に合わせた言葉掛けで、安心していただくケアに心がけている。処遇委員会を通して、啓蒙活動を行っている。	「入居者お一人おひとり」の言葉が職員に根付いており、個々に臨む対応が見える。日常的に入居者の傍らには職員の姿があり、また言葉掛けには特に職員同士注意し合う体制もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で、利用者の気持ち、考えがあつての行動になるように、選べる行動を提供して支援している。言葉で選択できない利用者に対しても表情や感情に注意して、利用者の気持ちを汲み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日程は決まっているが、お一人おひとりのペースに合わせ、お本人様の意志に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好みの服を選ばれたり、着用される方には、おしゃれを楽しんで頂いている。介助を要する方が多いために、身だしなみには配慮し、その人らしい身だしなみに支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりにあつた食事形態を提供している。又、ご要望があれば、都度、対応できるようにしている。準備や配膳などできる方にはお手伝いして頂いている。4～5名の方には、準備等には利用者に手伝ってもらっている。	法人の管理栄養士による献立を基に、事業所で職員が手作りにしている。調理の手伝いや後片付けを手伝う入居者の姿もある。食事中には職員も食卓で見守りをしながら時間を共にし、会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の普段の食事摂取量を把握し、足りない時は間食で補って、栄養の確保をしています。水分量も利用者の普段の摂取量を把握し、脱水ならないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをを確実にやっている。自分で出来ない方は介助している。定期的に訪問歯科衛生士に口腔内の観察・ケア・義歯調整をしてもらい、口腔ケアには特に力を入れている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期のトイレ誘導ではなく、排泄パターンを把握し、言動や行動からトイレのタイミングを察知し、健康・食事・水分摂取などを把握し、出来るだけトイレで排泄していただく支援をしています。	個々の排泄パターンにより確認を行いながら出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間はおむつ利用もあるが、ポータブルやパット等、一人ひとりの状況に合せ対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	疾病に影響を及ぼす方や慢性の便秘症の方も多い為に、個々に看護師からかかりつけ医に相談している。水分量の確保が難しい方には、飲み物など種類をかえて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予め予定は作っているが、そのときの希望や状態に合わせて、入浴していただいている。入浴は1対1で行い、湯船の中でゆっくり話される雰囲気を作り、歌や談話・時には悩みを打ち明けられる場所になっている。湯船に花びらを浮かべたり、菖蒲を入れたり、季節のお風呂も楽しんでいただ	入浴は入居者の希望を第一に週2回以上、1対1で支援している。朝風呂や長風呂を喜ぶ入居者の姿もあり、楽しみになっている。予定にとらわれず、失禁等の際にも入浴を楽しんで頂き、清潔保持も徹底している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の健康状態に合わせて睡眠状態を把握し、休息を取っていただいている。静かな居室ばかりが安息の場所ではなく、人の声が聞こえるリビングのソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋を管理し、いつでも情報が得られるようにしている。処方変更時は看護師より伝達があり、情報を共有し、症状の変化を確認・報告している。伝達。服薬までに二重のチェックを行い、飲み込まれるまで職員が確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合わせてそのやり方が継続できるよう支援しています。野菜の皮むきなどは家事をいていた婦人であればどなたも経験済みである為に、包丁を使って気分転換野菜の皮むき・カットが行われている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見など大型自動車で行く事も多く、集団で外出する事もあるが、利用者お一人おひとり一人の生活歴や嗜好に合わせている。ご家族の支援も得て、外出に出かけられるような支援もある。	日常的な近隣や公園の散歩の際には近所の方にも良く会い、憩いの時間となっている。行事も計画され、ドライブや花見、地域行事・運動会等外出の機会を作っている。家族の協力も得て、外出や外食を楽しむ入居者もある。	

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の下に、現金を事務所で預かりしている。必要に応じて、職員と一緒に外出して、自分でお金を支払い、希望のものを買い物できる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時に電話を使用していただいている。自分でかける事の出来ない利用者には、職員が代わりにかけたり、伝言したりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、入居者が食事をしたり、休息をしたり休息を取ったりなど、長時間過ごし交友の場所でもある為に、室温や環境整備に配慮し、居心地よく過ごしていただけるように努めている。	ゆったりとした広さを持つ共有空間は明るく、大きな食卓が配置され、傍には思い思いに景色を眺めゆったりと過ごすソファが配置されている。大きな窓からは海を眺めることが出来、入居者の絵や書の作品が飾られている。車椅子や歩行器も安全に通れる様、安全にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なじみの顔ぶれで、利用者同士で仲良く腰掛けて楽しい会話ができるように、座席の配置工夫している。利用者同士で座ることに安心されたり、自由にそのときの状況にあった場所を選んで頂き、選べるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具や身の回りのものを持っていただく事で、入居時の不安を少しでも軽減するようにご家族と協力しながら配慮している。。ご家族との写真や手芸作品を飾られ、おひとりお一人の温かみのある居室になっている。	使い慣れた家具が持ち込まれ、家族写真や絵手紙、また石細工や絵等の作品が飾られた部屋の入口には「番地」が表示され、入居者の生活空間そのものである。安全面の徹底にも家族と話し合いながら、安心して過ごせる支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーの建築であり、廊下に手すりの位置も工夫されている。方麻痺があってもどちらかのトイレの手すりを使って排泄ができるようになっている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム西城園

作成日 平成29年 12月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の伝統行事の参加など夜間に行われている行事に職員が参加している。今後も地域との付き合いが出来るように継続する	職員と利用者が共に社会参加できる仕組みを構築する。	ご家族の協力も得ながら、行事参加が出来るように、事前にご家族に告知し、年間行事をまとめ発信する取り組みを行う。	12ヵ月
2	10	24時間の時間を共有している利用者との関係性は家族に近づけられたい。利用者一番の「絆」は家族である	「家族会」の設置が必要であるかどうかの確認を行う。	家族会発足のアンケートで会が必要か否かの回答をまとめる。アンケートを基にご家族に集合頂き顔合わせで意見交換会開催する	6ヵ月
3	35	海に隣接する地域であることから災害等で避難することが多くありご家族も心配される。	職員間緊急連絡・災害連絡・地域連携・行政と連携の仕組みを構築し、利用者・家族の心配のない避難を行う。	上の項と同様に家族会のような形で、ご家族にわかりやすく不安のない説明を行う場を設ける。	6ヵ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

